

2016年度 理事長所信

第53代 高橋 美博

【はじめに】

2013年に創立50周年を迎えた福島青年会議所は、その創始の精神を連綿と受け継ぎ今日に至ります。また、東日本大震災から5年の節目を迎える2016年は、伝統を継承しつつも未来を見据えた運動を展開していかなければなりません。今日まで続く青年会議所の灯を、絶やすことなく次代へ紡ぎ、今まで以上に地域に頼られ求められる存在となるべく運動を展開してまいります。

【魅力あふれる会員・組織へ】

我々は青年会議所会員である前に、一社会人、家庭を持つ者、一人の人間として他に恥じることのないよう行動し、社会に対する責任を果たさなければなりません。JC運動と両輪をなすJC活動の分野においても、それぞれが魅力あふれる責任世代の人間として成長することが求められ、その行動こそが会員拡大へとつながると確信しています。また、日々の多様な社会情勢の変革に即座に対応する組織であるべく、しっかりと未来を見据え、確固たるビジョンを確立し、運動を展開しなくてはなりません。

【会員拡大の重要性・今が始まりの時】

昨今、青年会議所は全国的に会員減少に頭を悩ませています。経済の飽和や少子高齢化による人口減少問題などが原因に挙げられますが、会員の拡大こそが青年会議所の根幹を担う事業であり、必ずや達成しなくてはならない命題です。会員拡大の意義を自覚し、覚悟を決する今こそが、始まりの時です。我々は、志を同じうするものをさらに集い、力を合わせ明るい豊かな社会実現に向けた運動を、キャピタルJC（県都JC）としての誇りを胸に、大規模な会員拡大に邁進します。

【希望を担う子どもたちへ】

地域の未来は子どもたちの未来と密接に関わりを持ちます。子どもたちのころに思い描く夢や地域愛の醸成のために「わらしっ子塾」を開催し、さらに子どもたちの心身を鍛えるべく「わんぱく相撲」を開催します。また、青少年のみならず、青年期の若者たちへの夢と希望を育み、未来を描く機会を提供すること

が、この後の人生に大きなインパクトを与え、地域の未来へ寄与するものと信じ、福島の「希望」を育成します。

【福島市の伝統と魂で地域、全国、世界との交流を】

東日本大震災以降、福島市は多くの注目を集め全国各地からの支援をいただき、それに応えるべく福島の魅力を発信してきました。福島わらじまつりはその知名度も上がり、全国、世界へと飛躍をしようとしています。この機会を活かし、わらじを活用した繋がりを活動地域のみならず、全国各地や広くは世界まで理解を深めるべく、福島の魅力を活かし積極的に交流します。

【福島市に住み暮らす誇りの確立】

福島に生まれ育ったことに対して誇りを持ってもらいたい。一度は故郷を離れたとしても、いつかまたこの福島に戻りたい。そんな想いを浸透させるべく、ソーシャルストックを活かした魅力づくりを発信することで地域愛を醸成します。地域が魅力的であれば、この地域へ戻りたいと思う人も増え、人口増にもつながります。人口が増えれば経済もまわり、地域が安定して発展するという地域社会のモデルケースを確立するべく、中心市街地活性化に関する事業を実施します。また、2012年度より続く「新ふくしま未来構想」に基づく事業を実施するとともに、有事の際に向けた福島市社会福祉協議会との災害支援相互協定締結を目指し、安全安心なまちづくりの一端を担います。福島市の魅力を再認識するとともに、市民のみならず全国へ伝搬するべく運動を展開することで福島の誇りを確立します。

【確実なLOM運営と法人格維持継続に向けた取り組み】

公益法人格を有する団体として、より確実かつ正確なLOM運営が求められます。議事録作成や諸会議の運営ルールなど、まだまだ会員に浸透しきれない要素が多々あります。だからこそ、会員一人ひとりが自覚を持ち、LOM運営を知るべく、法人格維持継続に向けた特別チームを構成し、定期的な勉強会を開催します。また、正確な情報の受発信を徹底します。さらに、各種会議における議事録作成を通し、個々人のスキル向上と次代へ紡ぐべく運営の基盤を築き上げます。

【青年会議所会員としての使命】

福島青年会議所では新入会員の割合が増え、入会3年未満の会員が半数に達します。まずはJCを、Jayceeとしての使命を知る必要があります。また、JC運動とJC活動の真の意味を知ることで一人の人間・社会人としての

ありかたを学ばなくてはなりません。また、市民目線で物事を考えれば、入会一年目も十年も変わらない福島青年会議所の一員です。だからこそLOMアカデミーを開催し、会員一人ひとりの知識向上、資質向上に努めるとともに、福島青年会議所創始の精神も学び、会員としての使命を醸成します。

【結びに、愛する地域の未来のために】

我々が生まれ育ったまちは今、東日本大震災以降、過渡期を迎えております。風評被害は感じられなくなってきたのではなく、風化へと変わりつつあるのではないのでしょうか。自覚をしながら行動が伴わないということがないかと、常に自問自答をし、己を律し続けなくてはならないとの思いが、日を追うごとに強くなります。

青年会議所の門戸を叩き、11年の年月が過ぎようとしています。誰一人として知り合いのいない中、只々夢中に青年会議所運動に邁進してまいりました。青年会議所に入会していなければ、今の自分はいなかったといっても過言ではありません。青年会議所があったからこそ仲間ができ、地域を愛し、未来を思い描く機会をいただきました。青年会議所が目指す明るい豊かな社会の実現に向け、私がいただいた経験と同じように機会の提供に努め、仲間とともに未来を創造してまいります。

私の信念である言葉『知行合一』は、真に知るということは必ず行動が伴うという意味を持ちます。自らの行動に責任を持ち、家族や会社、青年会議所の仲間、そして我々を育ててくれる地域に対する感謝の気持ちを忘れることなく、一年間職責を全うすることをお約束いたします。

己を律し、仲間を信じ、相手を認め感謝を忘れるな。
常に自らが先頭に立ち、汗をかくことを忘れるべからず。
誇りに溢れるまち福島の実現に向けて。

知行合一

～己を律し、仲間を信じて行動せよ！
誇りに溢れるまち福島の実現に向けて～

「知行合一」とは

中国の明の時代に王陽明が学問である陽明学の命題の一つ。

「知る」ということは行動することの始まりであり、「行動」することは身に着けた知識を完成させることである知っているのに行動しないということは、初めから知らないのと同じであり、行動を伴わない知識は未完成であり、何もできないのと同じこと。

2016年度 基本方針

1. 2016年度7月入会時点での総会員数110名必達
2. 一斉拡大運動の実施
3. わらしっ子塾の開催（小学生対象）
4. 福島の未来育成塾の開催（中高生対象）
5. わんぱく相撲の開催・引率
6. 福島わらじまつりの発展に関わる全事業への参画
7. 福島の伝統文化を伝承し郷土愛を醸成する事業の開催
8. 地域経済団体とのまつりを活かした交流の推進
9. 福島市のソーシャルストックを活用した地域愛を醸成する事業の開催
10. 中心市街地活性化につながる事業の開催
11. 福島市社会福祉協議会との災害支援相互協定の締結
12. 公益法人格維持対策室の運営・勉強会の実施
13. 福島J Cホームページの運営・Web版J Cニュース発行
会員向けメルマガ(Web版)の発信
14. LOMアカデミーの開催（会員向け人材育成事業）
15. 現役・OBの懸け橋となる事業の開催（LOMの歴史を知る事業）